



木工体験を行いました。

今年も山梨県少年補導員連絡協議会顧問の久保田豊一さんのお力を借り木工体験を行いました。これまでに参加したことがある子どもたちの自宅には毎年スマサポで製作した作品が増えていき、庭などに作品が並べられ子どもの自宅に何うと体験活動の歴史を感じることが出来ます。この時期になると「今年は何を作るんですか。」と子どもたちは毎年この体験活動を楽しみにしています。最近ではベンチやピクニックテーブルと大型の作品を作らせていただきました。そして、今年は飾り台にしてもよし、椅子にしてもよし、踏み台にしてもよしという1つあれば何かと便利な木製の台作りに挑戦しました。初めて工具を持つ子どももいて工具の使い方に戸惑っていましたが、久保田さんを初め参加した周りの大人のサポートを受けながら木材と向かい合い、終わる頃には工具の使い方にも慣れた様子で立派な作品を作り上げました。春に子どもたちと田植えをし、秋に収穫したばかりのお米で握られたおにぎりは香りが良くとても美味しくいただくことができました。台作りを終えた子どもたちは工具をへらに持ち替えて屋台のように豪快にへらを使いながらやきそばを作ってくれました。台作りが上手くいった子どももいれば少し失敗してしまった子どももいましたが、最終的にみんなが笑顔で終わることが出来、楽しく子どもたちの心に残る体験となりました。



スマサポ職員から

「とにかく楽しい。無理しなくても関われる。」

自分なりの楽しさが味わえる。

通信の端々に楽しさがあったことが書かれていますが、わあっと喜べる楽しさもあれば、つくったものを見て、一人でしみじみ楽しいと感じることもできます。美味しいものをみんなで食べて、一緒にほっこりできる楽しさもあります。とにかく、「自分なりの楽しさ」を味わえるのがスマサポの体験の特徴でもあると思います。

ごく自然に人と関われる。

参加した周りの大人たちは、子どもたちと前から知り合いのようによく自然と一緒に活動しています。指導をしてくださった久保田さんは、子どもたちを孫のように大切にしてくれています。みんな食事をしながら、ごく自然に一緒にいるのです。喋らなきゃと考えたり、どう振る舞えばいいのかなど考える必要はありません。一緒に作業したり、必要な会話をしながら、無理しなくてもごく自然に人と関われるのです。豚汁や焼きそばやおにぎりの美味しさに加え、私は人の温かさを自然に感じました。

「私たちの支援」

まずは、家から出て
自分の目・耳・鼻・肌、そして心で
見る・聞く・味わう・感じる・学ぶ
そして今から、ちょっと立ち上がって行きたくなる
私はそんなところに寄り添いたいと思っています。

支援の相談はこちらに連絡をください

参加機関

- ・ 警察本部
- ・ 甲斐警察署
- ・ 南アルプス警察署
- ・ 山梨県少年補導員連絡協議会
- ・ 山梨県遊技業協同組合
- ・ その他ボランティア

ありがとうございました。

